

「戦争か」「平和か」 あなたはどちらを選ぶか？

― 八月一五日の敗戦記念日を迎えての熟慮を！ ―

◆ 五七年前の八月六日・九日、あの原爆によって、ヒロシマ・ナガサキの両市は一瞬にして消え、一週間後の八月一五日、わが日本は自ら始めた侵略戦争の天罰を受け、無条件降伏をして敗戦を迎えた。もし、本土決戦をしていたら、国民の多くは死傷し、日本国は滅亡し、領土は分割されていたであろう。

◆ 降伏のおかげで日本国は存続し、国会の議を経て、世界一素晴らしい平和憲法を誕生させて、近代民主主義国家へと脱皮することができた。

※その変化は革命的であった。

「明治憲法下の日本」 「今の日本国憲法」

×天皇主権（君が代）………↓○国民主権（民が代）

×人権ナシ………↓○基本的人権の尊重

×軍国主義国家（徴兵制）………↓○完全平和主義（第九条）

◆ ところが、小泉首相は、平和憲法など全く眼中になく、自・公・保の反動勢力に支えられて、「君が代」を国歌として定め、国民主権（民が代）を軽んじ、盗聴法・住基ネットなどで人権を侵害し、テロ措置法や有事法制で「戦争をする国」へと変貌し、国民の生命、財産、人権を踏みにじろうとしている。

◆ 小泉内閣になって、経済も失業も良くなり、福祉政策は後退するばかり。ただ、国民犠牲の戦争政策だけが、急ピッチで進み、軍国化が目立つばかり。

◆ 一方、核兵器の大好きなブッシュ大統領は、イラク・イラン・リビア・北朝鮮・ロシア・中国などを危険な国としてかけ、まずイラクを最初に破壊するために核を含む攻撃のチャンスを狙っている。

米国のある科学雑誌の核時計は、核戦争七分前を告げた。小泉内閣と与党は、この恐るべき米国の戦争に協力するための有事法制を、秋の国会ではが非でも成立させようと懸命である。この道は、さらに米国追従の軍国主義日本を生み出し、最後には日本滅亡の結末を迎えるであろう。

◆ 日本の平和憲法は、これら小泉戦争政策を全面的に否定する。軍備のあるところには平和はなく、最後は核戦争によって破滅を招く。

これを避けるために、世界の軍備を全廃し、「戦争のない世界」を作り上げ、世界平和を実現するのが、憲法第九条：非武装・戦争放棄：の目指すところである。これのみが、人類が共に生き残るための「ただ一つの道」ではないか！

◆ 五七回目の八月一五日・敗戦記念日を迎えて、平和憲法をぜひ読んで欲しい。その上で、われらの愛する日本を「戦争する国」にするのか、平和憲法を大切に守り、「有事（戦争）法制法を廃棄」するのか。一人一人がじっくりと考えて腹を決めるべき時が来ている。

次の選挙は、まさに「戦争か」「平和か」のどちらを選ぶのかの、抜き差しならぬ重要な選挙であり、我々一人ひとりの責任は限りなく重大である。

「――――二〇〇二年八月十一日（日）第四二六回・憲法を守る平和行進――」

―― 二〇〇二年八月十一日（日）第四二六回・憲法を守る平和行進 ――

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一ノ十五